

力いただいた石井院長には心から感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

■競馬事業調査特別委員会

岩手競馬の存廃を左右する「新しい岩手競馬組合改革計画」に基づいた構成団体による融資関連議案が、奥州市議会において賛成多数で可決されました。同案は盛岡市議会でも可決されましたが、岩手県議会では否決されました。それを受けて当議会は、年度末になつての事業廃止は、関係者と地域経済に大きな影響を与えることから、「岩手競馬の今後のあり方について慎重な対応を求める意見書」を岩手県知事等に提出しました。



公営企業金融公庫に対し要望書の提出

そのような中で3月17日に開催された岩手県競馬組合議会に、増田管理者は競馬事業を廃止する議案を提出しました。しかし、組合議会において、廃止に対する構成団体の歩調があつていないことが指摘され、構成団体の首長間で協議した結果、盛岡市と奥州市が融資財源を10億円ずつ積み増しすることとで合意しました。

これを受けて3月19日開催された岩手県議会での融資案が可決され、奥州市議会と盛岡市議会も後日同案を可決し、19年度の競馬事業開催が決定されました。

当特別委員会はこの間、市執行当局のほか県競馬組合の役員にも出席を求め、平成18年度の営業実績や新しい改革計画の実現性等について説明を求めるとともに、盛岡市議会との意見交換、県競馬組合議会の傍聴など精力的に調査活動を行ってきました。

また、岩手銀行と公営企業金融公庫に対し、債務免除や融資条件の変更など、財政支援を盛り込んだ要望書を提出し、関係者との懇談を行ってきました。この中で、それぞれの役員や幹部職員から、債務免除等については難色を示されたものの、競馬事業が廃止となつた場合は、債務の長期分割返

済について検討できるとの見解を得ることができました。

岩手競馬を取り巻く状況は、依然として予断を許さない状況にあることから、当特別委員会は今後とも継続して調査してまいります。

■北上川治水対策特別委員会

当特別委員会は、今期定例会中の3月14日に委員会を開催し、市執行当局から都市整備企画室長の出席を求め、本年1月29日に設立された前沢地区治水対策協議会の概要や設立経過について調査を行いました。前沢地区治水対策協議

会は従来からあつた無堤地帯の土地所有者や耕作者の方々が中心となつて組織されていた前沢赤生津地区北上川治水事業促進期成同盟会と、その対岸である前沢堤防や白山堤防の関係者を構成員とした前沢地区の北上川沿線全区域を対象とした協議会となっており、赤

生津側に堤防が築かれると暫定堤である対岸の前沢堤防や白山堤防は、漏水の危険箇所があることから兩岸を同時に築堤するための対策を図っていく必要がある。北上川の治水対策は、奥州市全体の治水対策事業とし、各団体の取組みの現状を、委員をはじめ当局担当者、地元関係者が統一した認識を



赤生津地区（平常時）



赤生津地区（洪水時）

もつ必要があることから今後も関係団体から現状の活動状況や意見聴取を行い、関係者間の共通認識を深め、適時適切な時期に要望を重ねていく必要があります。今後も積極的な調査活動を展開します。

■請願等審査特別委員会

【請願7号 教職員評価による給与の差別化を図らず協力協働できる職場の確保を求める請願】

継続審議となつておりましたが、評価マニュアルもできていない未熟な制度であり、又学校現場にそぐわない制度であるという観点から、採択すべきものと決し、県教委等に意見書を提出しました。